植物の形づくりの仕組みを調べて、新しい農作物を開発する

生物資源科学部　准教授　江角　智也

園芸植物を主な対象として、花の構造、花序形態のでき方、種子の形、果実の形成について、顕微鏡観察や遺伝子発現解析などを駆使して調べています。花、果実、種子などの発達と成長について調べ、そこから分かったことを育種に利用することで、作物の生産性を高める品種改良や消費者の目を引くような面白い形の豆や果物の開発も目指しています。

ブドウやカキ（柿）、大学農場に植栽されている160品種・系統のサクラ、出雲地方で産地化を進めているアズキなど、幅広い植物種を対象に研究を進めています。ブドウの房の大小やカキで雄花・雌花が形成される謎の解明、また、春にゴージャスな花を咲かせるサクラの育種開発などが現在の具体的な目標です。多様な形、彩り、味の収穫物や心に感動を与えてくれる園芸品種を生み出していくことで、私たちの食生活や生活環境を健康で豊かなものにしていきます。

ブドウの房の形の多様性

カキの雄花と雌花の形の違い

大学農場のサクラ遺伝資源の多様な花形態